

社会福祉法人 京都光彩の会

光彩だより

令和4年12月号



巻頭言、読者アンケート



西山高原工作所と印刷の仕事



地域交流



- ・京都市朱雀工房（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援）
- ・ワークステーション かれん工房（就労継続支援B型）
- ・西山高原工作所（就労継続支援B型）
- ・京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」
- ・こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」
- ・相談支援事業所 こうさい（計画相談支援）
- ・グループホーム賀陽、山ノ内、光（共同生活援助）



巻頭言

「待つこと、信頼すること、そして支援力」

今年の夏に亡くなった著名な精神科医師・中井久夫は、「待てる人は予後が良い」と述べています。このことを、私なりに考えてみました。「待つ」とは、自分にも他人にも、せかせか迫らないで、「信頼して見守る」ことを意味するのだと思います。「予後」とは、病気の後の回復（リカバリー）の姿を言います。

ゆったりと、自分の生命リズムと対話して、ダメージを受けた心身の回復の時を待つ、使い果たした心のエネルギーを、一滴ずつ貯めながら、溜まった加減に応じて、「急がば回れ」「日にち薬」と覚悟して、そのそと暮らしのリズムを取り戻す、ゆとりのある自分らしいリカバリー像を描く、「以前のバリバリ働く自分に早く戻りたい」という誘惑には、再発の誘いだと考えてスルーする癖をつける、などなど、「待つ」ためにいくつもの修煉が必要なのでしょう。

このような「待てる」人は、自発的に自分の中に産まれてくるパワーの発揮を（信頼して見守ってくれらる）人に育てられた人が多いようです。「こうしたら、ああしたら」と心配し、先回りして、口出し手出しし、過干渉・指示命令するのではなく、かといって、放任放置するのでもなく、信頼して見守るキャパシティ（度量）が親に求められます。

実は、専門職に要請される「支援力」のひとつ、「利用者の自己決定を促す働きかけ」は、この（信頼して待つ）関係性づくりと深く深く結びついています。「精神障害のある人は自己決定が不十分な人だ」との認識は根本的に間違った偏見です。自己決定を理解するとき、赤ちゃんの自己決定を考えてみましょう。赤ちゃんの願いや望みを受けとめるのは、母父のセンサーとレシーバーです。自己決定は、能力ではなく権利であり、保障するのは関係性や立場です。支援のプロとしての私たちに、利用者信頼して待つ力と、小さな発信を受けとめる感受性が要請されています。そのためには、自分自身に待つゆとり

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

読者アンケートのお願い

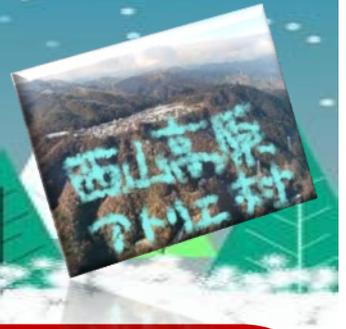
この度、光彩だよりの「読者アンケート」を行うことになりました。今号と同封しておりますアンケート用紙をご覧ください是非、ご回答ください。

今後の光彩だよりをより充実したものにしていいため一人でも多くの皆様のご意見をお待ちしております。

西山高原工作所と印刷の仕事

西山高原工作所とは

京都市朱雀工房で2年間の訓練を受けた精神障がい者の次なるステップとして、平成11年8月に西山高原アトリエ村で共同事業所として開所しました。平成15年10月に利用者の生活圏である上桂に移転し、翌年7月には社会福祉法人京都光彩の会の一員として小規模授産施設となりました。平成20年3月からは就労継続支援事業B型として現在まで活動しています。



印刷の歴史（昔のお話）

開所した際に京都市朱雀工房で行っていた印刷業務を引き継ぎ、国際社会奉仕団体ミレニアムライオンズクラブとのコンサート収益で中古のオフセット印刷機を購入しました。専門的な色合いは出せたのですが、印刷機の音がうるさく室内に響きわたり、メンテナンスも自分達でおこなう環境での仕事でした。

他方、じごくのそうべえの絵本で有名な先生（たじまゆきひこ先生）の協力を得てシルクスクリーン印刷でプリントTシャツを作りました。たじま先生の個展に出店もさせて頂き、利用者の活動を一般の方に広く知って頂く機会にもなりました。



近年の状況

社会のニーズに応えるべく印刷機をインクジェット式からレーザー式に変え、昔に比べて静かな環境の中で、名刺、ハガキ、封筒、チラシ、ポスター、冊子、会議資料などをとても美しく仕上げることができるようになりました。

また、今まで来られていた利用者が高齢化し、新たに多様な障害のある方の利用が増えたことから、印刷以外の仕事に適性を見出し、箱の組み立て・丁合・封入・ラミネート加工などの作業にも力を注いでいます。



人気の自主製品（紙製品、布製品など）

自主製品も作ってます。



ちび帳（330円）



Sarasiふきん（280円）



一筆箋（390円）

仕事の依頼、利用相談、商品注文など

利用者の声

- ★自分に合う仕事があり、また、仲間と一緒に仕事のできるの楽しい。
- ★困ったときや不安な時にスタッフがしっかりと面談をしてくださり、仕事に前向きになれる。
- ★自由に休憩がとれ広い室内で仕事ができるのが良い。



(((問い合わせ先)))

西山高原工作所

TEL : 075-203-2126

FAX : 075-382-2084



地域交流

～おいしいバナナを頂きました～

今年も、9月21日、12月8日に、株式会社朱常分店(しゅうつねぶんでん、京都市下京区)よりバナナが届きました。株式会社朱常分店は、1959年より毎年2回、「栄養価の高いバナナを気軽に食べてもらいたい」との温かい思いで、京都市にバナナの寄付を続けてこられました。9月(126回目)は214施設に、12月(127回目)は215施設に、各回約3トンの美味しいバナナを、児童、高齢者、障害のある市民に届けて下さいました。変わらぬご厚情に心より御礼申し上げます。



～嵐山で清掃活動に参加させて頂きました～

2022年10月2日、同じ法人の他の事業所と共同でミレニアム・ライオンズクラブの桂川清掃活動に参加させて頂きました。嵐山公園中之島地区を中心に清掃作業に取り組んだあと、今年もミレニアム・ライオンズクラブから、プリンを提供頂き、帰宅後に美味しく頂きました。細やかなお心遣いに感謝致します。



～夜間特別拝観に招待頂きました～

事業所のお仕事として清掃に行かせて頂いています高台寺へ一般公開前日の夜間特別拝観内見会にご招待して頂きました。一步、境内に入ると、幻想的なライトアップで美しい風景がありました。圧巻はプロジェクションマッピング。ねね様の生い立ちや秀吉との出会いを映像にしているそうです。また音響もすごく迫力あるものでした。とても感動しました。



京都光彩の会後援会のご報告とお礼

『精神障がいのある人たちが、ふつうの市民として、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に各事業の運営や計画実施を行っていきたいと思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進してまいりたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も随時承っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします

●今回ご加入いただいた皆様●

岩崎 隆二 様 西田 すみ様 野地 芳雄 様 保田 美幸 様

編集後記

今回が今年度最後の光彩だよりになります。皆さま今年も光彩だよりに目を通していただきありがとうございます。ございました。

広報委員会は月に1回法人内の各部署から1、2名ずつ集まり、①地域社会に向けて法人の理念や役割・事業内容・職員の思いなどを伝えること、②信頼される法人となることを目的とし活動しています。

今後も法人の魅力をお伝えしていけたらと思っております。

でぜひ事業所内で、当事者の方やご家族、関係機関の方などにも見て頂ければありがたいです。

今月初の試みとして読者アンケートの企画をしました。アンケートにお答えいただいた方には抽選で30名様に当法人の自主製菓子をプレゼントいたします！

FAX・郵送、またはPC・スマートフォンからも回答いただけますのでぜひ感想をお聞かせください！（都竹）

利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

- 田中 稔一(支援センター「なごやか」)
- 都竹 桃子 (ワークステーション かれん工房)
- 高橋 恒明 (京都市朱雀工房)
- 松岡 芽以 (グループホーム 賀陽・山ノ内・光)
- 鈴木 啓史 (西山高原工作所)
- 植田 真由 (支援センター「なごやか」)

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター 1 F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
発行責任者: 中條 了
印刷: 西山高原工作所